

# 刈り遅れ牧草の給与対策について

雪たねニュース編集部より

今年の1番牧草の収穫におかれましては、道内全域で6月中旬以降から雨天続きで牧草収穫が大幅に遅延した状況となりました。7月中旬以降に天候回復となりましたが、各地で1番牧草が刈り遅れとなりました。

過去に天候による牧草の刈り遅れが発生したのは、9年前の平成21年が思い出されます。梨田監督率いる北海道日本ハムファイターズがリーグ優勝（日本シリーズは読売ジャイアンツの優勝でした。）した年で、政権交代が流行語となった年でもありました。

雪たねニュースでは平成22年3月発行の330号にて、「平成21年産牧草サイレージの傾向と給与管理上の留意点…21年産は、養分補給が肝要…」という記事を掲載させて頂きました。

平成30年と平成21年の7月1日そして7月15日の北海道農政部の牧草の作況調査を比較すると下記の通りとなります。

## ◎7月1日現在全道平均

牧草	平成30年	平成21年
1番草収穫 (%)	38%	53%
遅速日数	遅4日	遅3日

## ◎7月15日現在全道平均

牧草	平成30年	平成21年
1番草収穫 (%)	57%	91%
遅速日数	遅11日	遅4日

以上の事から、今年の1番草の栄養価は、平成21年当時の状況より不良なものと推察されます。

今回は、平成22年3月発行の雪たねニュースに記載した内容から抜粋し、再度ご紹介するとともに、刈り遅れ牧草の給与対策として皆さまのお役に立てる情報提供となればと思います。

## 平成21年産1番草の傾向

- 低蛋白質
- 高繊維、特に消化性の低いOb含量 及びリグニン含量が多い
- NFCなども例年より低め
- ミネラルは例年より若干低め

次ページの表1に平成21年産の各地区の牧草サイレージの粗飼料分析の平均値を記載しましたので、ご参照ください。

**平成30年産の1番草はもっと低いかもしれません。  
早めに粗飼料分析をして、手持ちの粗飼料の成分を把握しませんか？**

## 給与にあたって

刈り遅れの牧草サイレージや乾草・ロールサイレージを給与していく上では、採食量の維持が不可欠のほか、低下する栄養分の補給が必須です。

そこで、栄養供給と乾物摂取量（採食量）が重要なポイントとなる分娩前後の給与管理を中心に、その留意点、対応策について概説します。

表1 平成21年産牧草サイレージの平均値（水分、pH以外は乾物%）

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	OCW中のOb割合	リグニン	NFC	TDN	総点数
道央	4.32	61.7	11.4	41.8	68.9	90.1	5.45	12.5	57.4	91
天北	4.42	75.0	12.9	41.4	69.7	89.1	4.90	9.4	57.9	89
道南	4.26	75.0	11.7	41.9	70.0	89.3	4.95	10.7	58.0	27
根釧	4.17	76.1	11.8	41.3	70.3	88.5	4.66	10.3	58.8	326
十勝	4.41	73.3	11.3	42.5	71.4	88.7	4.86	10.2	58.0	85
北見	4.24	75.1	12.3	41.9	68.5	88.7	5.19	11.0	57.6	33

## 乾乳期では…

まず乾物摂取量を低下させないよう、**給与飼料の採食状況に注意が必要です。**

乾乳期間では、最低12～13kgの乾物摂取量が必要です。例えば配合飼料2kgにサイレージを10kg給与した場合、乾物摂取量の確保には追加として乾草であれば7～8kg、ロールサイレージであれば15kg前後が必要と思われます。給与粗飼料の重さを計測し、採食量の目安をつけておくべきと考えます。

**給与する粗飼料の採食が思うようにならない場合は給与回数を増やす、細断する、もしくは良質な購入粗飼料を組み入れることも一考と思います。**

給与粗飼料の分析結果によっては乾乳牛に給与する配合飼料の規格を変更する事や、単味飼料(蛋白質源、エネルギー源)を補給する手立てが必要となり、ミネラルの充足にも注意すべきです。

## 分娩後では…

分娩後の採食立ち上げの重要性は周知のことであり**分娩後の採食低下は、その後の生産性、そして繁殖成績に大きなダメージを与えます。**

この時に粗飼料の採食量が増えない中で、配合飼料を含む濃厚飼料に給与が偏ると疾病が発生しやすくなりますので、更に注意が必要です。

また低カルシウム血症等の周産期病対策としてエネルギー不足を補完する手立てを積極的に取り入れるべきと考えます。一例ですが分娩時のカルシウム補給や分娩後の飼料用グリセリン投与が効果的です。

次に搾乳牛の給与メニューですが、優先すべきは粗濃比のバランスに注視していかに粗飼料の採食量を落とさず維持していくかが大きなポイントとなります。

牧場に応じて給与する粗飼料の組み合わせも様々でありますので、飼料メーカーや関係機関の方々にご相談されると良いかと思えます。

以上、今年の刈り遅れ牧草の給与対策についてご紹介いたします。ご参考になれば幸いです。

